

令和 8 年度 第 1 回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和 8 年 7 月 24 日 (金) 午前 10 時 30 分～午後 0 時 10 分
場 所	ボートレースまるがめ 旧 B ポート 2 階会議室
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 22 名中、16 名出席 綾野委員、内海委員、梶谷委員、川田委員、熊谷委員、小山会長、 杉尾副会長、鈴木委員、筒井委員、豊島委員、西川委員、馬場委員、 檜垣委員、藤井委員、増田委員、松永委員 (五十音順) (丸亀市産業生活部) 平尾部長 (丸亀市産業生活部 産業観光課) 徳田課長、香川副課長、綾野商工労政担当長、本田観光交流担当長、 和泉副主任、新井副主任、三附主事、金谷主事 (丸亀市産業生活部 農林水産課) 造田農政担当長、久保水産林務担当長 (丸亀市協働推進部 まなび文化課) 横山文化振興担当長 (丸亀市農業委員会) 山田次長
欠席者	荒川委員、今村委員、柴田委員、真鍋委員、矢野委員、山本委員 (五十音順)
議 題	1. 挨拶 (平尾部長、小山会長) 2. 新委員紹介 3. 丸亀市産業振興推進会議について 4. 議事 (1)第三次産業振興計画実施計画(令和 7 年度実績)について (2)その他 5. 周知事項等

会 議 の 概 要

1. 挨拶

丸亀市産業生活部 平尾部長より挨拶。

小山会長より挨拶。

2. 新委員紹介

新委員の自己紹介。

3. 丸亀市産業振興推進会議について

(事務局)

資料 1 により、丸亀市産業振興計画や丸亀市産業振興推進会議の役割の説明。

(事務局)

ここからは、小山会長に進行をお願いしたい。

4. 議事

(1) 第三次産業振興計画実施計画(令和 7 年度年実績)について

(小山会長)

時間になったら、各部会長より審議内容の発表をお願いしたい。

なお、初めて産業振興推進会議にご参加される方もいらっしゃるので、資料の説明をさせていただきます。評価の項目であるが、A B C D E という記載がある。C が概ね目標を達成しているということにしている。この C を基準に更に目標を超えて達成がある場合は B、A としている。逆に目標値を達成しなかった項目については D、そして実績がゼロ等であったりするものについては E という評価になっている。2025 年の実績、目標と併せてご覧いただければと思う。それについて、これから各部会で説明を受けていただくが、もし著しく成果が上回っている、達成されているというところがあれば、なぜそうなったのか理由等も議論いただければと、また、もし D、E という評価があればその原因についても審議いただいて、もしかしたら施策自体を変えなければいけないとか、こういうやり方があるだとか皆様に議論し、知識をお借りいたしまして、積極的にご発言いただければと思う。

それでは部会での審議を進めていただきたい。

【各専門部会で意見交換・発表】

(農業・水産業部会、松永委員)

まず最初に評価について、C評価以下のD評価、E評価については、何故かということで理由を聞きながら進めていったが、これについてE評価はD評価やC評価へ、また、D評価はC評価、B評価へとあげられるように頑張ろうという話になった。

個々の問題について。施策展開の1. 後継者、担い手の育成についてだが、高齢化の問題があり後継者不足であるが、新規就農者を支援するという施策も多々準備があり、また、集落営農法人化や多様な農業人材の支援も行っている。

全国では大規模化というのが進められているが、県内、特に本市では地形等の問題もあり、大規模化しにくいという現実がある。香川県だと多様な担い手の確保ということで、多様な農業人材支援事業というのを実施している。そのようなことから丸亀市においても多様な担い手ということで、応募者が増えており、今現在 24 人ほど応募されているし、これからも増えてくるだろうと思う。今後は、大規模化とともに多様な人材、いわゆる兼業農家等も含めて、中間の農家の方が、丸亀市内の農地を守っていくのが一つのパターンとなっていくのかなと思う。

次に2. 生産環境の適正化について。海面・河川のごみ対策についてはB評価としている。漁協さんらを中心にご参加いただいており、ありがたいことである。継続しておこなっていければと思う。有害鳥獣対策についても、イノシシの指標ではあるが、目標数以上を捕獲できており、継続しておこなっていただければと思う。

次に3. 生産の増進と収益力向上であるが、アスパラガスとモモの作付面積は過去増やせていたが、今はご承知のとおり、資材の高騰等もあり増やせないという状況である。使えていない土地もあると思うし、収益力の向上という目標もあるので、目標に沿った面積を確保していくという方向性は引き続き持っていければと思う。今の環境は生産農家に対しては厳しい現況であるが、モモも含めて何とか維持しているという状況である。2ページ目以降では、E評価というのがあるが、もう少しの努力でCにもなりえるのかなと思う。たとえば、1－3－5省力化・機械化等に係る産学連携の促進。これはJAさんなんかと協力しながら、市の声かけ、働きかけで一気に達成するのかなと思うので頑張ってもらいたいと思う。

最期に、4. 販路の拡充についてもEもあるが、これは体験機会であるとか食農の啓発活動であるとか、これももう少しの努力で達成できるのかなと。特に最近では市内のコミュニティセンターが新築された際には、料理教室ができるような調理設備も設置されており、そういうものを使っていただけたらとお願いもしているので、やっていく方向に進んでいくと期待している。

(工業・地場伝統産業部会、筒井委員)

評価の方、事務局の方からしっかりと発表していただいて、おおまかに「ここはどうなんだ」というのはなかったと思う。ただ、評価基準について、前回にも申し上げたように、ABCDE評価だけでいいのか、目標2に対して、1でCとかDとか、目標1に対して、0がEとか、そういう数字だったら、○とか×とか、いろんな付け方もあるのではないかと。評価の基準をもう一回再考していただきたいと思う。数字を基準にして全て評価しているので、行政として、ここは力入れたのに結果が数字に上がってないんだと、いうのもあるのではないかと意見が上がった。それも個々の評価の中にいれていただけないかと、例えば備考の欄にここは取り組んだが、数字が上がっていない、来年度もっと頑張れると思いますとか入れていただけると、我々も評価しやすい。今ここでお話をお伺いして、のほほんと過ごしてるわけではないというのはよくわかるので、その部分をもう一度、次年度から評価に対する、自分たちがやった、行政がやった努力、民間と一緒に頑張って頑張った努力は書面で残していただいて、データで残していただくというのが大事でないかと思う。

全体的な今回の計画に対する評価ということで、結局、最終的には、企業さんと学生たち、就職する人たちの話になり、どうやったら丸亀に来ていただけるのかというような意見が、行政側と我々専門員側から出た。まずは丸亀を知っていただくという大きなところから入って行って、企業を知っていただく、丸亀弁でいうとおもっしょげな会社を探す。それは生徒のみならず、保護者の皆さんと一緒に、それも丸亀だけでなく、広域で近隣の中讃地区の行政体も含めて、こんな面白いことをやろうとしているんですと、丸亀が中心になって開いていただけたら、高松の規模に近づけるのではないかと意見がでた。もう一つ、今度は参加する学生側の立場ではなく、逆に学校の先生、または大学の教授たちにも、保護者を中心とした意見を踏まえた中で、行政から行くのか、どっから行くのか分からないが、その人たちに、先生方に対しても丸亀の良さ、企業の良さをもっと知っていただく必要があるのではないかと意見があった。結局、採用というところに、我々毎回ここに落ち込むが、いい意見交換ができたと思う。

(商業・サービス業・観光産業部会、西川委員)

最初に出てきたのは、評価の基準の部分。ABC評価はいいとして、まず数字でベースを出してくれているのは非常にありがたいと思う。他の自治体はなかなかされていない。単にABCだけだしている状況で、ベースが分からないが、丸亀はそういうので一番よく分析していただけているなと思っている。ただ、自分が問題をだして、自分が回答してそれを評価するというものなので、思ったよりも評価が厳しいというか、もう少し、自分らが気に入ってやったんだというのを、数字が悪くても評価に反映させるとか、逆に結構、消化試合でやったが数字が伸びたなっていうのは、決してAではなくてB、C

の評価になるとか、数値と中身の乖離っていうのをもう少し自分らの熱量等をいれた状態も含めて評価してくれるとありがたいなと思う。結果の数値だけでどうやこうやということはないが、評価基準となってくるのがはっきりしているのはありがたいなと思う。また、毎回、分科会で出てくるが、商店街のことは非常にメインの話になった。一つは、空き家をどうするのか、それに対して色んなプロジェクト案もあると聞いた。空き家もそうだが、空き地があったりするのでそういうのも使ってみたらどうかという、同じように持ち主はいるんだろうが、跡地を駐車場にするようなところを別の形で活用させてもらったらどうだとのことで、例えば、今年度うどんストリート実行員会が設立されたという話がでてきたものですから、それに対して色んな皆さんのアイデアをいただいた。もう一つは、最後に意見が出てきたが、海外ということで、台湾とスペインとの交流。非常に活発だということでA評価であり、その内、スペインというのが大きく、丸亀はサンセバスチャンと姉妹都市、そこでの学生さんの交流的な問題が活発ではあるが、今回の実績の分もバルセロナのイベントについては県からオファーがあつての出店ということで、相乗りするという表現は悪いんですけど、そんな形なんでもう少し、本来自分らが縁組みしているサンセバスチャンとの交流をもっと主体的にできるような形で動きが取れんのかという意見もありました。

非常にたくさんの施策をしているので、説明も大変だったと思うが、聞く方もへえそうなんかと思いつながらどんどん説明が進んでいくということで、もう少しゆっくり深掘りをできるような時間があってくれれば、意見としては皆さん面白い、面白いといったら失礼ですけど、色んな意見がでてきたので、これをもっともっと拾い上げられるような場があってくれればありがたいなと思う。

(小山会長)

3部会とも評価基準についていろいろと意見をいただいた。ABCDEと数値が併記されており、そのバランスをみながら評価していただいている。あとは施策としての難易度であったり、思いであったりとかそういう周辺の話も含めて説明をいただければ、我々もより施策についての理解も深まるのかと思う。評価は色々精査しやすいところ、あまり精査できないところもあると思うが、うまく少し工夫をすとか、組み合わせを変えるだとか違う視点で施策を動かすとどれも何か成果があるのではないかと感じる。そういった貴重な意見を各部会でいただいたのかと思う。インターンシップの話があつたが、私は大学関係者なので、それはいつも悩みごとで有る。大学でいうと、大学教諭の考えるインターンシップ、大学職員の考えるインターンシップ、大学職員からなるキャリアセンターの考えるインターンシップ、保護者や学生が考えているインターンシップの方向性が実は全然違っている。やはり保護者や大学は大手企業や公務員に意識しがちではあるが、必ずしも学生はそういう視点ではなくて、実は友人とずっと一緒にいたいであ

るとか、地元ですっと働きたいとかそういうことを考えていて、大企業でどんどんキャリアを積んでいきたいという学生は案外いないのではないかと。実は、自分のキャリアというか人生をうまく生きていくのか、どういう風に幸せに生きていくのかといういは、今の時代によく考えていて、その点でも地元就職というのは、かなりチャンスがあるのではないかと考え聞いていた。

そのほか、貴重な議論をいただいたが、やはり時間が足りないという感じがする。実施していただいている施策の数が非常に多いこともあり、そこから色々なアイデアがでるのが産業振興推進会議であるので、時間を取っていただいて積極的に議論ができる場があれば更に良いものになるのではないかと思います。

(3) その他

(事務局)

議事録作成と送付の案内。

(筒井委員)

いつも参加者名簿を出していただいているが、4月を過ぎるとどうしても行政側のメンバーチェンジもあって、せっかくお会いできる中、名刺交換の機会だけでは覚えられないので事務局のメンバーの名立ても作っていただきたい。もし可能であれば委員22名と事務局メンバーを入れた一覧表のようなものをつくっていただければ参加、不参加等も即座にわかるし、どういったメンバーで構成されているかもよくわかると思う。

5. 周知事項等

(事務局)

ブランド認定部会の現地審査の案内

午後0時10分閉会

(以上)